草地で観察

Point1 バッタやキリギリスの仲間を採(と)る

バッタやキリギリスの仲間は草地にすむ種類が多く、草の生える状態によってすんでいる種類が違っていることは、P. 40で説明しました。ここでは、実際にこのことを観察して確かめてみましょう。

観察の時期は、夏の終わりから秋の初め、つまり８月下旬から９月頃が適しています。観察地はどこの草地でもよいですが、できるだけいろいろな状態の草地がある場所を選びましょう。淀川や大和川などの、広い河川敷(かせんじき)の草地が理(り)想的(そうてき)です。このような河川敷(かせんじき)は、管理のため定期的に草刈りが行われていますが、広いためにいろいろな状態の草地ができやすいのです。

まず、草地全体をながめて、だいたいの観察ポイントを決めましょう。背の高いススキがたくさん生えている場所、草がまばらに生えている場所、芝生(しばふ)のような場所、足がかくれるほどの高さの草地など自分なりに区別します。

観察のポイントが決まったら、ポイントごとに観察や採集を始めましょう。

～いろいろな状態の草地～

草がまばらに生えている場所では、普通に歩くだけで、トノサマバッタやクルマバッタモドキ、イボバッタなどが飛び出します。隠れるところが少ない場所のバッタは、逃げる力が強いようです。追いかけてアミで採集しましょう。

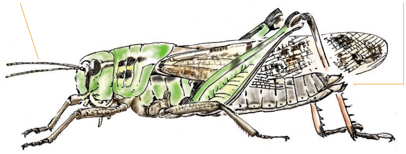
草の多い場所では、緑色をした種類が多いので、注意しないと見逃してしまいます。ここでは、ゆっくり歩くと相手が少し逃げるのでいるのがわかります。草が少し深い場所ではアミで草をすくって歩くと、知らないうちにたくさんの虫が入ります。ハエやユスリカ、カメムシなどが多いですが、バッタやキリギリスの仲間もたくさんとることができます。虫は普段は目立ちませんが、意外とたくさんいることが発見できるでしょう。

採集したバッタやキリギリスの仲間は、図鑑などで名前を調べてから、必要であれば一部を標本として保存し、ほかは逃がしましょう。観察ポイントごとに記録を忘れないようにして下さい。このような観察を続けると、草地の状態によって採れる生きものが違っているのが少しずつわかり、草地のようすをみただけで、すんでいるバッタやキリギリスの仲間が思いうかぶようになります。

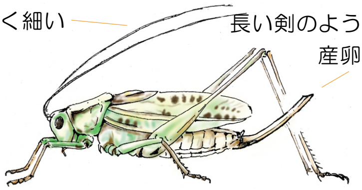
コラム 4
バッタとキリギリスはどう違う？

昆虫を大きく分けると、チョウ目やコウチュウ目、トンボ目など多くの目に分けられますが、バッタとキリギリスはともにバッタ目（直翅目）に分類されます。さらにバッタ目は、バッタ亜目とキリギリス亜目のふたつに分けられていて、このふたつにはたくさんの違いがあります。

最も目立つ違いは、触角とメスの産卵管です。バッタの触角は短く、キリギリスは長く細いです。キリギリスのメスには、お尻に長い剣のような産卵管がありますが、バッタにはありません。皆さんのよく知っている種類はどちらでしょうか？



～バッタ～



～キリギリス～

草地